

# 都市局のスマートシティ政策についての意見と提案（概要）

## 1. スマートサービスによるWell-beingの改善方策検討ワーキンググループ

スマートサービスを住民生活のWell-beingの改善に結びつけるための課題等について検討する

カテゴリ	氏名（敬称略）	所属
委員	村木 美貴（座長）	千葉大学大学院工学研究院
	饗庭 伸	東京都立大学都市環境学部
	秋山 祐樹	東京都市大学建築都市デザイン学部
	中道 久美子	東京工業大学環境・社会理工学院
	陰山 大輔	加古川市役所 企画部 政策企画課
	鈴木 昌幸	岡崎市役所 総合政策部 デジタル推進課
	重松 眞理子	一般社団法人 不動産協会
オブザーバー	松村 秀弦	独立行政法人 都市再生機構 都市再生部事業企画室
	日置 潤一	内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局
	各課 課長補佐	国土交通省 都市局

## 2. 議論のとりまとめ

### 論点1 都市局としてのスマートシティ政策の方向性について

- 都市政策や都市計画の実現等、**スマートシティ（スマートサービス）に取り組むストーリーを明確に**するとともに、都市のビジョンの実現のために「**真に**」必要なスマートサービスを目指すこと
- Well-being指標等の各種調査やセンシングデータ等を活用して、**都市のビジョンや課題の明確化や利用者の認知度等の把握**とともに、**取組の見直しを図る仕組みを構築**すること
- 様々な価値観を持つ利用者の目線を踏まえた、わかりやすく成果につながるスマートサービスの実現**を目指すこと

### 論点2 スマートサービス実装のゴール設定について

- 持続的な取組のため、**サービスのマネタイズ、または、市民からの理解・共感を得ることを実装のゴール**として考えること  
また、短期的な視点とともに長期的視点で効果がでるような取組もあるため留意が必要
- ランニングコスト・市民の定着度等も含め、**検証可能なゴール設定**とすべきではないか
- 官民連携プラットフォームの活用を通じて**定性的・定量的に効果検証**を行うこと

### 論点3 スマートサービスが自然と創発される仕組み

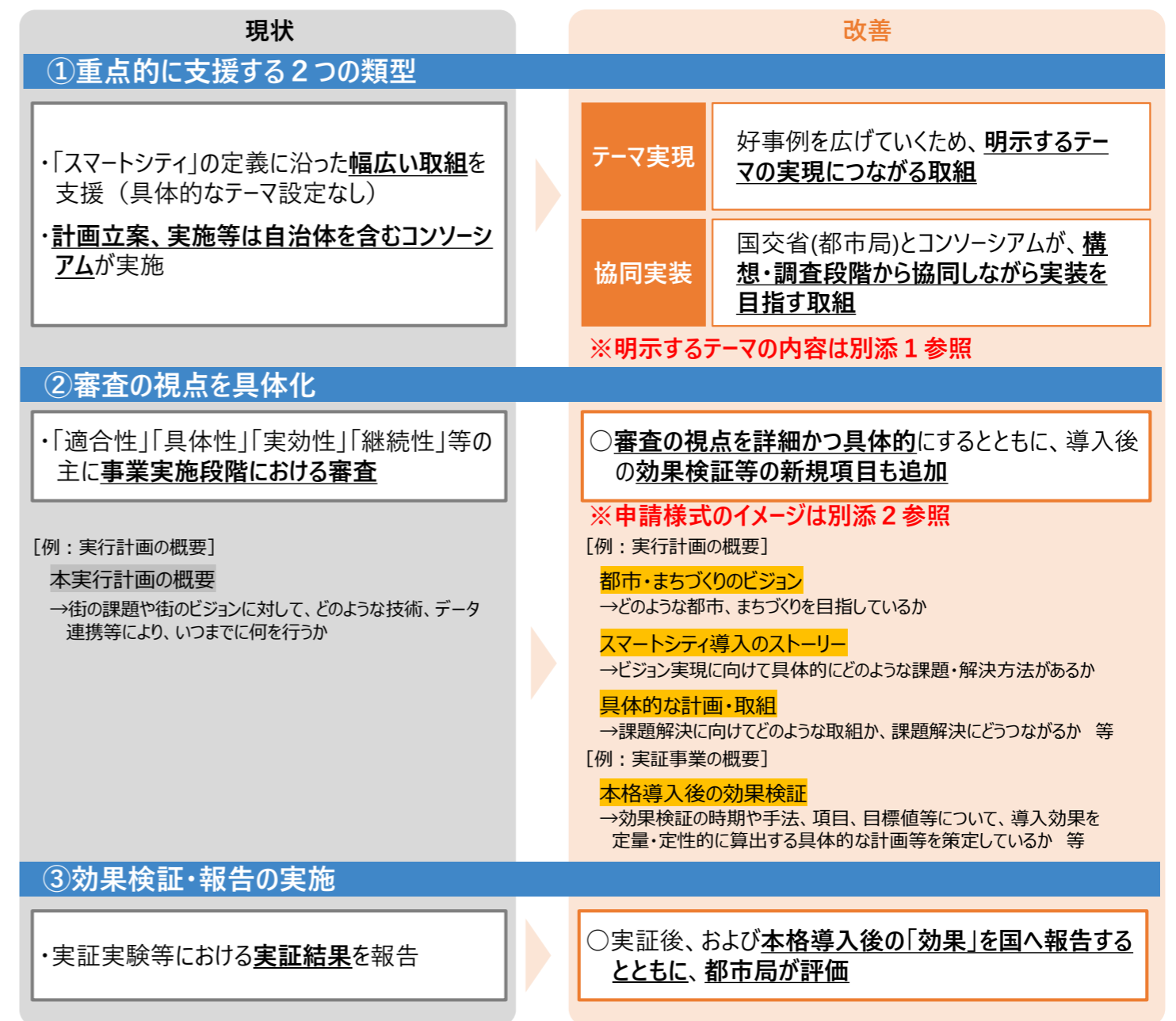
- サービス導入後の**データ活用**も含め、**次の施策につながるサイクルを構築**する等、自律的に発展するエコシステムを構築すること
- 理念やビジョンに共感し、積極的かつ長期的に参画する民間事業者とコンソーシアムを組成**すること。  
自治体内部の体制についても、企画部門、都市計画部門、対象事業を運用する原課等が連携し、**組織横断的な体制を構築**すること
- サービスの横展開だけにとらわれず、**導入に向けての仕組みの横展開を進める**こと。そのためにも、**近隣地域と連携した導入や都市局による伴走**や、官民連携プラットフォームの活用等を通じた、**コンソーシアム間の情報共有や連携を強化**すること

### 論点4 都市局のスマートシティ施策の改善に向けて

- 都市局として**実現したいテーマを明確にし、それに沿った取組**や都市局とコンソーシアムが**構想・調査段階から協同する取組**を推進できる仕組みとすること
- サービス導入後の**データ活用**も含め、**先導的なプロジェクトを支援**すること
- コンソーシアム、特に自治体に対して**データの活用方法を助言**するとともに、都市政策として必要な**Well-beingを評価する手法のあり方**を中長期的に検討すること

## 3. WGをふまえた都市局スマートシティ施策の改善

### (1)「スマートシティ実装化支援事業」における具体的な改善ポイント



### (2)都市におけるスマートサービスが自然と創発される仕組みづくり

#### ①スマートシティ実装化支援事業を担うコンソーシアムの役割明確化

コンソーシアムのうち、特に地方自治体は**都市政策・都市計画実現、あるいは市民に対する説明責任の観点から、スマートサービス実現に向けて責任をもって主導的な立場を担う**

#### ②スマートシティ官民連携プラットフォームの役割拡大

**官民連携プラットフォーム等**を活用し、国との連携他自治体との知見の共有のほか、**効果検証や、事業で得たデータ・経験を応用した施策の検討等により、全国のスマートシティ施策を先導する**

#### ③「デジタル情報活用推進コミッティ（仮）」の創設

スマートシティのデジタルインフラの一つとしての「Project PLATEAU」による3D都市モデルの活用拡大も含め、**個別プロジェクトに関する適切な助言等を行う組織**を創設

# 都市局のスマートシティ政策についての 意見と提案（報告）

---

スマートサービスによるWell-beingの  
改善方策検討ワーキンググループ

令和6年2月27日

# 都市局のスマートシティ政策の現状

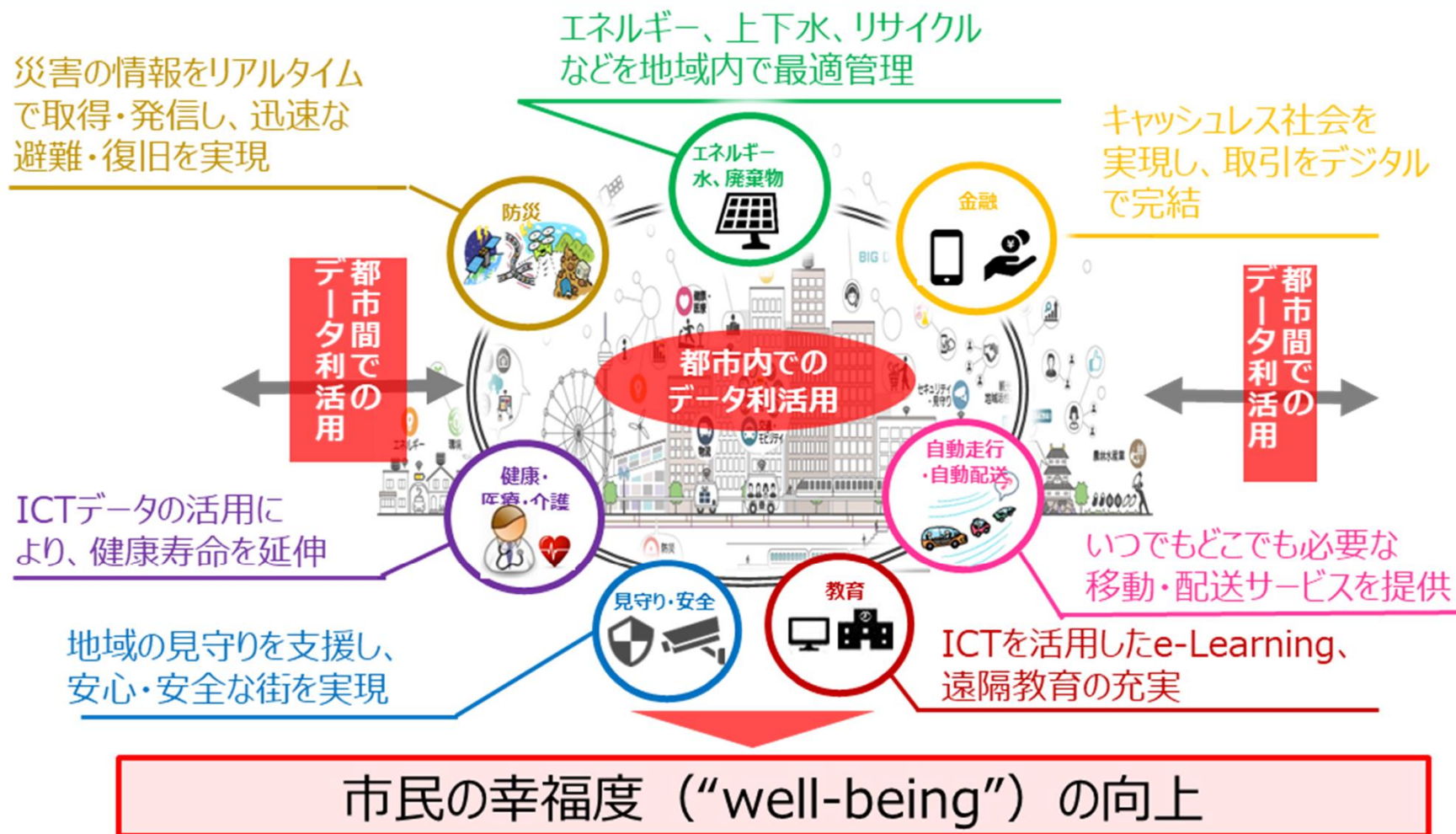
---

# 政府が取り組むスマートシティ

スマートシティとは？

令和3年4月 内閣府・総務省・経済産業省・国土交通省・SC官民連携PF事務局 「スマートシティガイドブック」より

- ①スマートシティガイドブックの基本理念、基本原則に基づき
- ②新技術や官民各種のデータを活用した市民一人一人に寄り添ったサービスの提供や、各種分野におけるマネジメントの高度化等により
- ③都市や地域が抱える諸課題の解決を行い、また新たな価値を創出し続ける
- ④持続可能な都市や地域



# 都市局のスマートシティに関する定義

国交省都市局における「スマートシティ」の定義

**「都市の抱える諸課題に対して、I C T等の新技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区」**



# 都市局のスマートシティ推進に向けた取組

- R1年度から、先進的な取組を実施する地域に対するスマートシティ実装化支援事業等により支援。
- 補助事業による支援のほか、「スマートシティガイドブック（R3.4）」、「スマートシティモデルプロジェクトからの知見集（R4.3）」等取組で得られた知見の集積・公開。
- R2年度から、スマートシティをはじめとしたまちづくりのDXのデジタル・インフラとなる3D都市モデルの「整備」・「活用」・「オープンデータ化」を推進するプロジェクト「Project PLATEAU」を実施。



# 都市局の取組状況

○R1ーR4の間、スマートシティ実装化支援事業等により、30地域の実証事業を支援



○全ての実証実験の結果に報告書等を作成・公開

- ・各地域の実証実験の実施内容、考察等を記載した報告書および概要資料を作成
- ・当該資料を国土交通省都市局HPで公表



○実装地域の拡大

実証事業を支援した30地域のうち、

**支援した事業を実装 : 15地域**

支援事業以外を実装 : 7地域

未実装 : 8地域

※支援事業を実装した15地域以外の全地域においても、引き続き実装に向けた検討を実施



○実証実験の知見を集積・公表し、自治体等の主体的な取組を促進

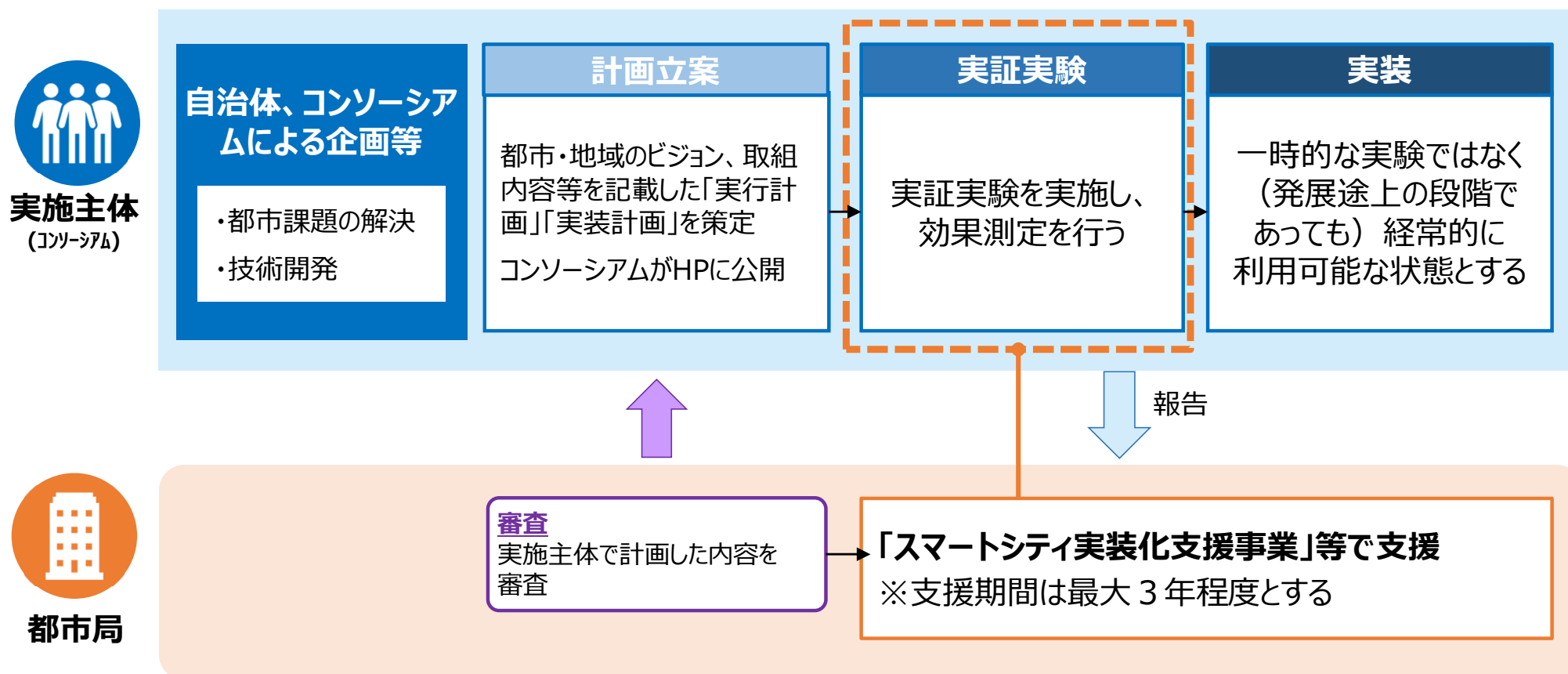
- ・R4.3 : 実証実験の留意事項をまとめた「スマートシティモデルプロジェクトからの知見集」を作成
- ・R4.10 : 国土技術総合研究所において、都市課題から解決のための新技術を検索できる「スマートシティ事例集【導入編】」を作成
- ・R5.4 : 複数サービスの連携を示した「スマートシティサービスの連携ユースケース」を作成

# スマートシティ推進と都市局の施策

- これまで、主に「スマートシティ実装化支援事業」により、コンソーシアムが企画するスマートサービスの実証実験を支援。また、蓄積された知見を資料集としてとりまとめ、公開。
- また、都市再生や立地適正化計画の実施等の都市計画実現に合わせたデジタルインフラの導入等についても補助事業により支援。
- 関係府省庁と連携して「官民連携プラットフォーム」を創設・運営し、官民の情報共有等の場を提供。

## ■スマートシティ推進の流れ

 支援範囲





# スマートシティの政府の推進体制と官民連携プラットフォーム

○政府一丸となって、さらに産官学の連携によりスマートシティの取組を推進。

## 政府一丸となったスマートシティの推進体制

### 統合イノベーション戦略推進会議

議長：官房長官、議長代理：科学技術担当大臣

指示 ▼ ▲ 報告

### スマートシティ・タスクフォース会合

関係府省（事務局：内閣府）

### ○関係府省連携による施策推進体制

#### 内閣府

全体総括  
スマートシティの設計図  
(アーキテクチャ)の構築

#### デジタル庁

デジタル社会重点計画  
等策定

### モデル事例の構築と全国への横展開

#### 国交省

(都市局)

都市インフラに関連し、複数分野に跨るモデルプロジェクト

#### 総務省

都市OSを整備し、複数分野に跨るプロジェクト

#### 国交省・経産省

(総合政策局)

新たなモビリティサービスのモデルプロジェクト

## 産官学連携によるスマートシティの推進体制

官民の知恵やノウハウを結集してスマートシティの取組を加速すべく、企業、地方公共団体、大学、関係府省等を構成員とした官民連携プラットフォームを令和元年8月に設立。

### 官民連携プラットフォームの構成（合計960団体）

会員（事業実施団体）644団体

企業等  
(457団体)

大学・研究機関  
(49団体)

地方公共団体  
(187団体)

会員  
(経済団体等)  
3団体

会員（関係府省）12団体

内閣官房

警察庁

金融庁

文部科学省

厚生労働省

農林水産省

環境省

事務局

内閣府

総務省

経済産業省

国土交通省

デジタル庁

オブザーバー会員  
(301団体)

(R5年12月末時点)

### ①事業支援

各府省のスマートシティ関連事業を実施する会員に対して、資金面に加え、ノウハウ面でも各府省が一体となって支援

### ③マッチング支援

解決したい課題を持つ地方公共団体等と、解決策やノウハウを持つ民間事業者等とのマッチングを支援

### ②分科会

共通する課題を抱える会員相互で課題の解決策等の検討のため分科会を開催（分科会の成果は会員間で共有）

### ④普及促進活動

各地におけるスマートシティの取組の普及や、モデル事業で得られた知見等の横展開を図るための活動を実施

# WGにおける議論のとりまとめ

---

本WGでは、主に次の4つの論点を中心に議論を重ね意見をとりまとめるとともに、具体的なスマートシティ施策の改善について提案をとりまとめた。

## 【論点1】

都市局として、「Well-beingの向上」のため速やかに実現すべきスマートシティの方向性を提示すべきではないか？

併せて、「Well-beingの向上」として具体的に何を目指すのか、特に「主観的評価」の面に関する課題も認識しつつ、指標のあり方も含めて整理すべきか？

## 【論点2】

スマートサービス「実装化」の定義・ゴール設定をより明確にすべきではないか？

## 【論点3】

スマートサービスが自然と創発されるエコシステム形成の方策を検討すべきではないか？どのような仕掛けが必要か？

## 【論点4】

都市局のスマートシティ施策の改善にあたり、どのような点に留意すべきか？



**都市局のスマートシティ施策の改善提案**

# 論点1 都市局としてのスマートシティ政策の方向性について

## WGでの主な意見

### 都市計画(まちづくりの全体像)とスマートシティとの関係性

- これまでのスマートシティ事業は、まちづくりの全体像においてどのような役割を果たすかがわかりにくい事例が多い。**「最終的な都市の価値向上のために何を行いたいかを検討し、実現のためにどのようなスマートシティ技術を導入できるか」、と考えることが重要**ではないか。例えば、まちづくりビジョン等の上位計画において、スマートシティで目指す都市のかたちや進め方等を位置づけた後、地区計画において、公共空間の利用促進やエリア内のインフラ整備と併せて取り組むことが望ましいのではないか。一方で、ビジョンを立ててまちづくりを実現していくことだけでなく、日々生活する中での便利さの方が幸福度につながる人もいるため、**利用者目線からの議論も必要**ではないか。
- 国交省としての政策目標を設定することで、ある程度方向性を示せるのではないか。例えば、コンパクトシティ+ネットワーク、カーボンニュートラル、少子化対策等。特に、**都市計画の観点から、「空間を使った都市課題の解決」方策を出していくことが重要**ではないか。

### 都市局としての支援のあり方

- 地域によって課題が異なるため、目標分野の設定には取組地域の減少につながる可能性もある。いかなる変革を求めるかについて十分な議論を行い、その**内容が都市政策と合致する取組であれば、支援分野は限定せず比較的自由度をもたせてはどうか。**
- 小さな改善ではなく**大きなゲームチェンジを求める場合、あるいはハード整備事業との関連性を有する場合に、都市局のスマートシティ実装化支援事業が必要**とされるのではないか。また、計画策定の取組初期段階から、事業化・エリアマネジメントまで一貫通貫したシステムやデータ活用の提示をすることが**効率的**だと考える。
- 民間で進められることには公共投資しないこととすべきではないか。一方で、エリアマネジメント型スマートシティも含め、民間企業個社の取組をどう位置づけるのかの整理が必要。

# 論点1 都市局としてのスマートシティ政策の方向性について

## WGでの主な意見

### Well-beingの評価とスマートシティ政策

- 今あるまちづくりの目標像をどのようにスマートシティ化し、何を価値向上できるかについて、指標を活用することで見つけ出すことができるのではないかと。都市の現状を知り、どのようなまちを目指すか定義するなかで、都市ごとにこだわる指標を選択すべきではないかと。幸せのかたちがデータから明確にわかるならば、それを基に取組ビジョンを明確化するとよいと考える。
- まちづくりは長い期間の中で行われるものであり、指標の活用には状況に応じた柔軟さも重要ではないかと。幸福度指標だけでなく、センシングデータを自分たちで可視化して活用すべきではないかと。例えば、都市密度を見るために、居住・オフィス・イベント等の密度の把握、市の経済活動が集約できているか、立地適正化計画における拠点誘導区域等に集約できているか等を念頭に置きつつ、センシングデータで事業を見守り、挑戦を繰り返すというかたちもあるのではないかと。市民の認知度等指標を用いて手触り感を把握し、施策の見直しにつなげていくことも必要だと考える。
- 国土交通省のスマートシティの特徴は、都市の実空間と関係することだと考える。多種多様な世帯が様々な場所に住んでおり、外部からの来訪者もある中で、スマートシティを考える空間スケールには幅がでる。また、ビジョンといった長期での考え方と目に見える短期での考え方のように、時間スケールにも幅がある。空間や時間軸のスケールによって指標の結果が異なってくる中で、大きな方向性として何をしたいのか見失わないようにすることが必要。
- 効果測定は、都市の観点および利用者の観点の両面から評価を行う必要がある。また、検証する効果については、都市空間に対する効果に着目すべきではないかと。

# 論点1 都市局としてのスマートシティ政策の方向性について

## － WGからの提案 －

都市局としてのスマートシティ政策の基本的な方向性として、次の点が重要である。

1-1

都市政策や都市計画の実現等、**スマートシティ(スマートサービス)に取り組むストーリーを明確に**するとともに、都市のビジョンの実現のために**「真に」必要なスマートサービス**を目指すこと。

1-2

Well-being指標等の各種調査やセンシングデータ等を活用して、**都市のビジョンや課題の明確化や利用者の認知度等の把握**とともに、**取組の見直しを図る仕組みを構築**すること。

1-3

**様々な価値観を持つ利用者の目線を踏まえた、わかりやすく成果につながるスマートサービスの実現**を目指すこと。



# 論点1 国交省都市局としてのスマートシティ政策の方向性について

## 1-1. 都市のビジョンの実現のために「真に」必要なスマートサービスのイメージ

事例：目指す都市のかたちを実現させるスマートシティ [愛知県岡崎市]

「楽しい・快適・安全なウォークブルシティ」に再編するため、都市空間の整備（都市再生事業）とともに、人流、車流等の様々なセンシングデータの取得・分析により、**都市経営を高度化**。これにより、**整備した都市空間に人が集まる（まちを歩く）効果的な施策を行い、店舗の新規出店や賑わい創出等、目指す都市のかたちの実現につなげている。**

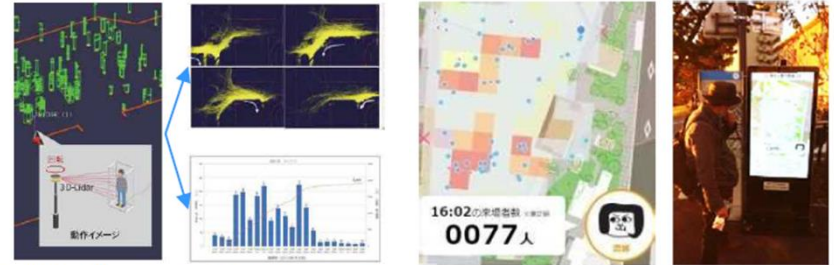


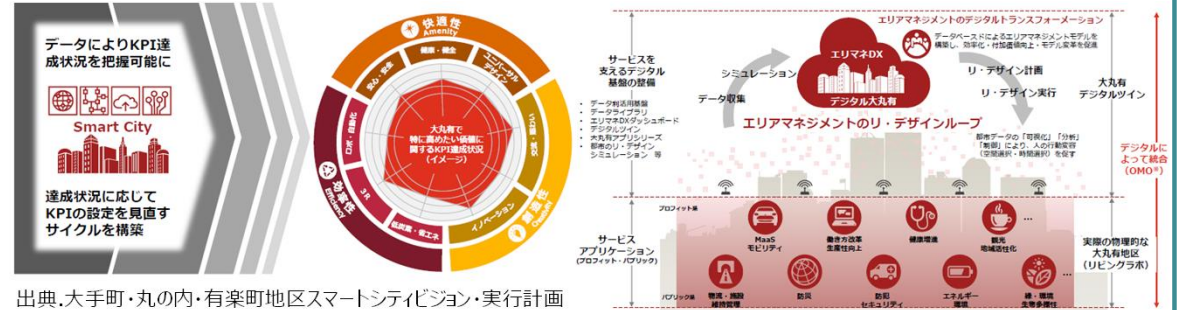
図. 人流センサーによるデータ取得と分析イメージ

図. 混雑情報のリアルタイム共有状況

## 1-2. Well-being指標やセンシングデータ解析等により、取組の効果検証・改善が図られるイメージ

事例：多様なデータによりコンスタントにエリア評価を行うスマートシティ [不動産協会資料等より]

カメラやセンサー、アプリ等によりユーザーのデータを収集し解析。データに基づいた取組の効果検証を行い、継続的な改善を行っていくことで、持続的な都市経営につなげている。



出典: 大手町・丸の内・有楽町地区スマートシティビジョン・実行計画

## 1-3. 利用者の目線でわかりやすく成果につながるスマートサービスのイメージ

事例：手軽な仕組みで市民の安全・安心を実現するスマートシティ [兵庫県加古川市]

より安全・安心な市民の暮らしの実現に向け、市内約1,600箇所への見守りカメラを設置するとともに、この**インフラの応用（検知器として利用）等により、小さな専用ビーコンタグを所持する子供や高齢者の位置情報を家族に提供する民間サービスを導入。**

約2,300人の市民が利用するとともに、近隣自治体も含めたサービス提供を進めている。



図. 見守りビーコンの検知・情報発信イメージ

## 論点2 スマートサービス実装のゴール設定について

### WGでの主な意見

#### ゴール設定の考え方

- 「実装」=「事業として走り続けていけること」であり、マネタイズされたら実装と言えるのではないか。実装には、持続的な運営が可能となる事業スキームとして、データの保守更新を支える収益構造を見出すことも必要であり、事業スキームを見出だすまでに、長期的な支援も必要である。また、長期の公共的な視点も重要であり、デジタルインフラがあるから民間サービスが生まれるという関係性にも着目すべきだと考える。
- 一方で、新規の技術は量産されていないため、費用としてイニシャルコストだけでなく保守コストも高い。スマートシティにかかるコストは都市経営全体の費用として捉え、マネタイズを考えるべきではないか。また、安全安心の分野はマネタイズによる評価が難しい。市民への定着度合もゴール設定の一つと考えてよいのではないか。
- スマートサービスの実装化のゴールとしては、国交省の政策目標の達成に資するべきではないか。KPIではなく、実態に着目する必要があるのではないか。スマートシティ実装化支援事業に申請する時点で、コンソーシアムの申請内容における、実証と実装との距離感についての意見を伝えてはどうか。

### － WGからの提案 －

スマートサービス実装のゴール設定にあたり、次の点が重要である。

2-1

持続的な取組のため、サービスのマネタイズ、または、市民からの理解・共感を得ることを実装のゴールとして考えること。  
また、短期的な視点とともに長期的視点で効果が得られるような取組もあるため留意が必要。

2-2

ランニングコスト・市民の定着度等も含め、検証可能なゴール設定とすべきではないか。

2-3

官民連携プラットフォームの活用を通じて定性的・定量的に効果検証を行うこと。

# 論点3 スマートサービスが自然と創発される仕組み

## WGでの主な意見

### スマートシティの推進体制

- 担当者ドリブンな状況をどう改善するか？ 第三者的な法人を作って、中長期的に面倒を見続けられる仕組みを作ることが必要ではないか。**属人的ではなく、組織としてスマートシティに取り組む体制を構築**しなければ、行政でも民間でも持続しない。**自治体内部においては、企画部門、都市計画部門、対象事業を運用する原課等が連携することで、組織横断的な体制を構築**することが重要である。また、例えば、空き家・空き店舗を利用するプレイヤーとしてイノベーション企業を誘導し、彼らがスマートシティ事業と連携することにより、受益者である都市のプレイヤーや市民がサービスの提供者になることや、**新たに開発されたサービスから得られたデータをデータ連携基盤に載せていくような、自律的に発展するエコシステムが重要**ではないか。あわせて、**データ利活用にあたっての権利関係を将来を見据えて戦略的に調整できる体制とすべき**ではないか。
- 民間事業者の中でも、まちづくりを生業とするようなリードタイムを長くもてる事業者であれば、地域に根差して、官民連携で長期的に取組を継続しやすい傾向がある。

### スマートサービスの横展開

- アプリ・センサー・データ連携基盤の**全てを各地域で開発・運営することは無理がある**。例えば、地域がセンサーとデータ連携基盤を導入し、アプリ部分はカタログから選んで利用料を払うことができればハードルも下がるのではないか。また、地方では東京と同量のデータはないことも予想されるため、横展開できるだけのデータがないことも課題である。スマートサービスの創発のためにはベースとなるデジタル都市アセットの整備・提供が必要であるとともに、データの活用を推進するインセンティブも必要であり、**官民の役割と連携を明確化し、柔軟に、複数の仕掛けを並行しながら進めることも必要**ではないか。サービスそのものではなく、**サービス導入に向けての仕組み・制度の横展開が重要**ではないか。
- 地域によって事情が大きく異なるから無理な横展開は消化不良を起こすのではないか。近隣地域との共通課題に対するスマートサービスであれば、広域展開しやすいのではないか。**自治体としては、国等が間に入ってくれることで、横展開しやすくなる**。

### － WGからの提案 －

スマートサービスが自然と創発される仕組みづくりにあたり、次の点が重要である。

3-1

サービス導入後のデータ活用も含め、次の施策につながるサイクルを構築する等、自律的に発展するエコシステムを構築すること。

3-2

理念やビジョンに共感し、積極的かつ長期的に参画する民間事業者とコンソーシアムを組成すること。自治体内部の体制についても、企画部門、都市計画部門、対象事業を運用する原課等が連携し、組織横断的な体制を構築すること。

3-3

サービスの横展開だけにとらわれず、導入に向けての仕組みの横展開を進めること。そのためにも、近隣地域と連携した導入や都市局による伴走や、官民連携プラットフォームの活用等を通じた、コンソーシアム間の情報共有や連携を強化すること。



# 論点4 都市局のスマートシティ施策の改善に向けて

WGでの主な意見

## スマートシティ施策の改善の方向性

- **都市局が目指すテーマ、地域に求められるテーマを明確にすることが必要**ではないか。テーマは、市民へのサービスだけでなく、立地適正化の実現等、**都市計画分野での活用も重要**。また、行政リソースの重複を減らす観点から、例えば、**地域が共通に使えるサービス開発もテーマとしてはどうか**。単一分野のデータ活用では地域の課題解決が難しくなっており、**複数分野のデータ活用もテーマとしてはどうか**。
- スマートシティの構想づくりに悩んでいる団体が多く、**事業立案・構想段階から、国とコンソーシアムの協同で検討していくかたちが望ましい**のではないかと考える。
- スマートサービスを通じて取得する**データを、次の施策につなげるサイクルが必要**である。取得したデータセットを次の施策に生かすことでスマートシティの幅も広がる。また、成功事例の展開等を通じて自治体内外の壁をなくし、**様々なデータを共有し使い回せる仕組みづくりを行うのもスマートシティの1つのかたち**ではないか。取得した**データの活用方法がわからない自治体への支援も必要**ではないか。
- サービス導入後のデータ活用も含めた**広い視点・枠組みでスマートシティ施策を展開していくこと、先導的なプロジェクトを支援し前例を作っていくことも有効**ではないか。また、支援にあたっては、導入するスマートサービスの内容ではなく、地域における**ビジョンや都市計画・都市政策との関係性等について指標やデータを活用して評価すべきだ**と考える。



### － WGからの提案 －

都市局のスマートシティ施策の改善策として、実装化支援事業を次の3つの観点で改善させてはどうか。

4-1

都市局として**実現したいテーマ**を明確にし、それに沿った**取組**や都市局とコンソーシアムが**構想・調査段階から協同する取組**を推進できる仕組みとすること。

4-2

サービス導入後の**データ活用**も含め、**先導的なプロジェクト**を支援すること。

4-3

コンソーシアム、特に自治体に対して**データの活用方法を助言**するとともに、都市政策として必要な**Well-beingの評価手法のあり方**を**中長期的に検討**すること。

# 都市局のスマートシティ施策の改善提案

---

# 都市局のスマートシティ施策の改善提案

## ■ 本WGの議論を踏まえたスマートシティ施策改善方針

### (1) スマートシティ実装化支援事業の改善

今後の事業の採択にあたっては、**WGの意見を踏まえ審査内容を再整理、改善**させるとともに、**次の類型に合致する取組、特に先導的な取組を優先して支援**することで、実効性のある取組を推進

**テーマ実現** 好事例を広げていくため、都市局が明示するテーマの実現につながる取組

**協同実装** 都市局とコンソーシアムが、構想・調査段階から協同しながら実装を目指す取組



### (2) 都市におけるスマートサービスが自然と創発される仕組みづくり

- スマートシティ実装化支援事業を担うコンソーシアムにおいて、特に**自治体は都市政策・都市計画実現、あるいは市民に対する説明責任の観点から、スマートサービス実現に向けて責任をもって主導的な立場を担う**
- **スマートシティ官民連携プラットフォーム等を活用**し、国との連携他自治体との知見の共有のほか、**効果検証や、事業で得たデータ・経験を応用した施策の検討等により、全国のスマートシティ施策を先導する**
- スマートシティのデジタルインフラの一つとしての「Project PLATEAU」による3D都市モデルの活用拡大も含め、**個別プロジェクトに関する適切な助言等を行う組織**を創設

# 都市局のスマートシティ施策の改善提案

## ■スマートシティ実装化支援事業の改善のポイント

### 現状

#### 1. 取組テーマの明示、都市局の伴走型支援の実施

- ・「スマートシティ」の定義に沿った**幅広い取組**を支援（具体的なテーマ設定なし）
- ・個別プロジェクトへの都市局の関与は事業費補助に伴う審査等の間接的なものであり、**計画立案、実施等は自治体を含むコンソーシアム**が実施

### 改善

- 次の2つの方向性に分け、それぞれのタイプに応じた支援を実施
  - ・**都市のビジョンに適合し、事前に明示する具体的なテーマを実現する**取組。（テーマ数や具体性・サービス例等は有識者委員会にて審議・決定）
  - ・都市局とコンソーシアムが、**構想・調査段階から協同しながら実装を目指す**取組
- 官民連携PF**等を通じ、自治体同士、国への事前相談・情報共有等、**官民のつながりを強化**

#### 2. 審査の視点を具体化

- ・「適合性」「具体性」「実効性」「継続性」等の主に**事業実施段階における審査**

- 主に2つの視点での審査を追加し、重視
  - 事前：[ストーリー・デザイン]**  
⇒都市のビジョンや利用者のニーズとの整合
  - 事後：[効果検証]**  
⇒導入効果を定量・定性的に算出する計画等に関する言及

#### 3. 効果検証・報告の実施

- ・実証実験等における**実証結果**を報告

- 実証後、および**本格導入後の「効果」を国へ報告するとともに、都市局が評価**

# 都市局のスマートシティ施策の改善提案

## ■「テーマ実現」に向けた仕組み

「スマートシティ実装化支援事業」等で、都市政策や都市計画の実現に資するスマートサービスや好事例の拡大、次につながる取得データの活用を支援

※支援期間は最大2年程度（審査/採択・報告は毎年度）を想定



R6年度に新規に取り組む部分



支援範囲

### スマートシティ実装化支援事業



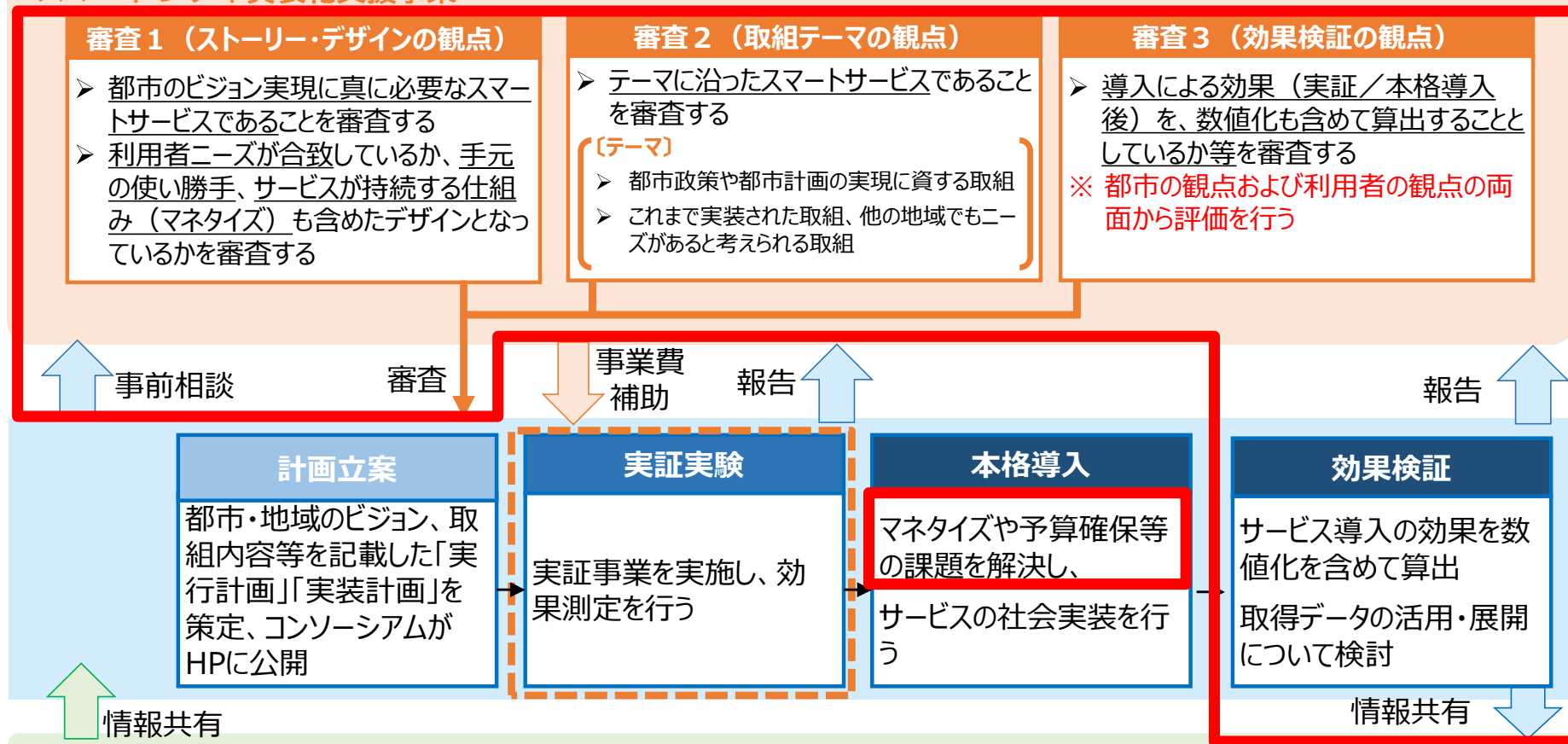
都市局



実施主体  
(コンソーシアム)



官民連携  
PF



#### 効果検証・情報共有・他地域への展開


実証・導入した事例に関するプロセスや課題、効果、取得データ、他地域への導入可能性等について、継続的にフォローアップ、情報共有を図る

# 都市局のスマートシティ施策の改善提案

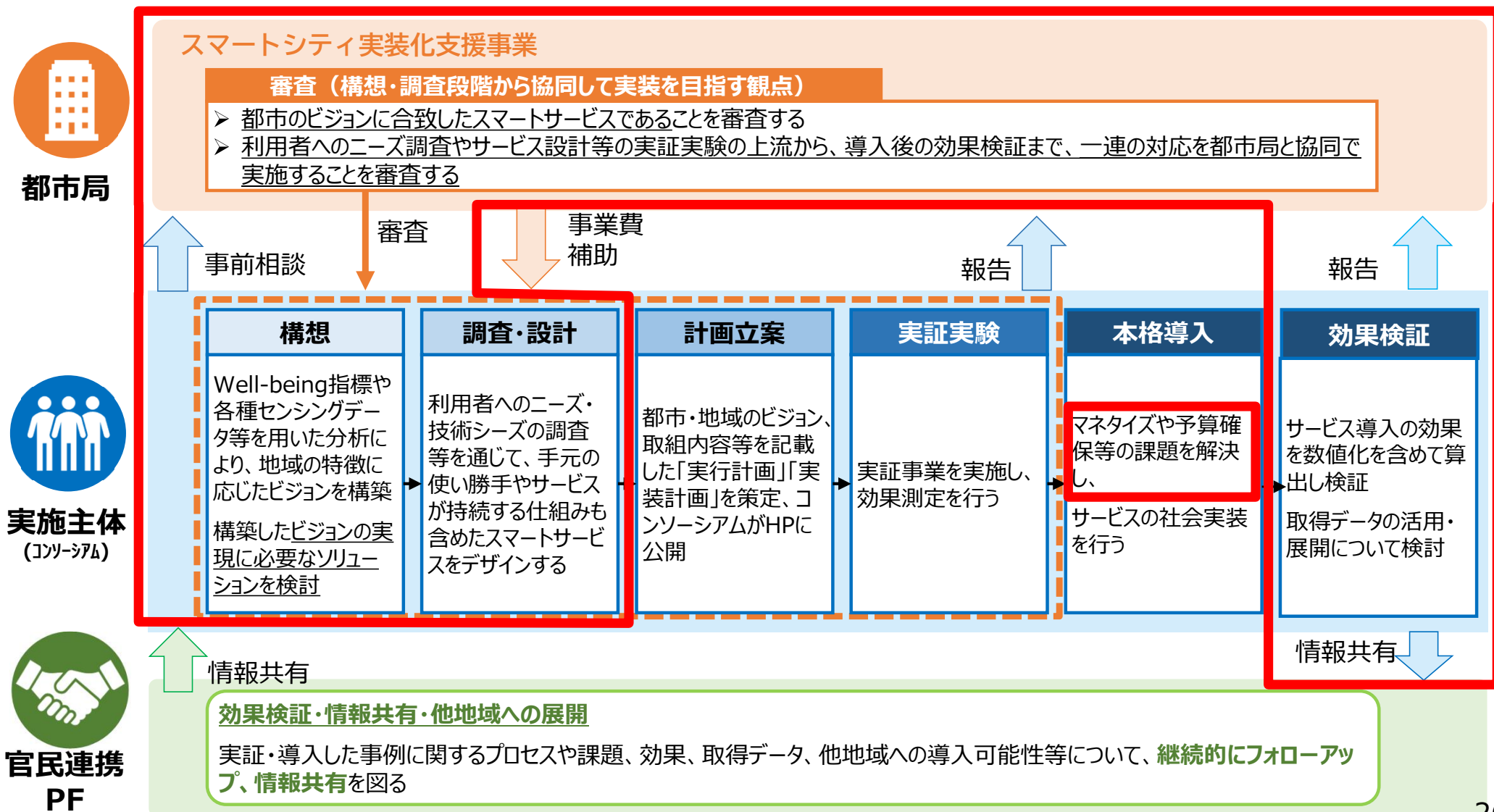
## ■「協同実装」に向けた仕組み

「スマートシティ実装化支援事業」等で、実証実験の上流（構想もしくは調査・設計段階）から一貫して伴走型支援

※支援期間は最大3年程度（審査/採択・報告は毎年度）を想定

 R6年度に新規に取り組む部分

 支援範囲

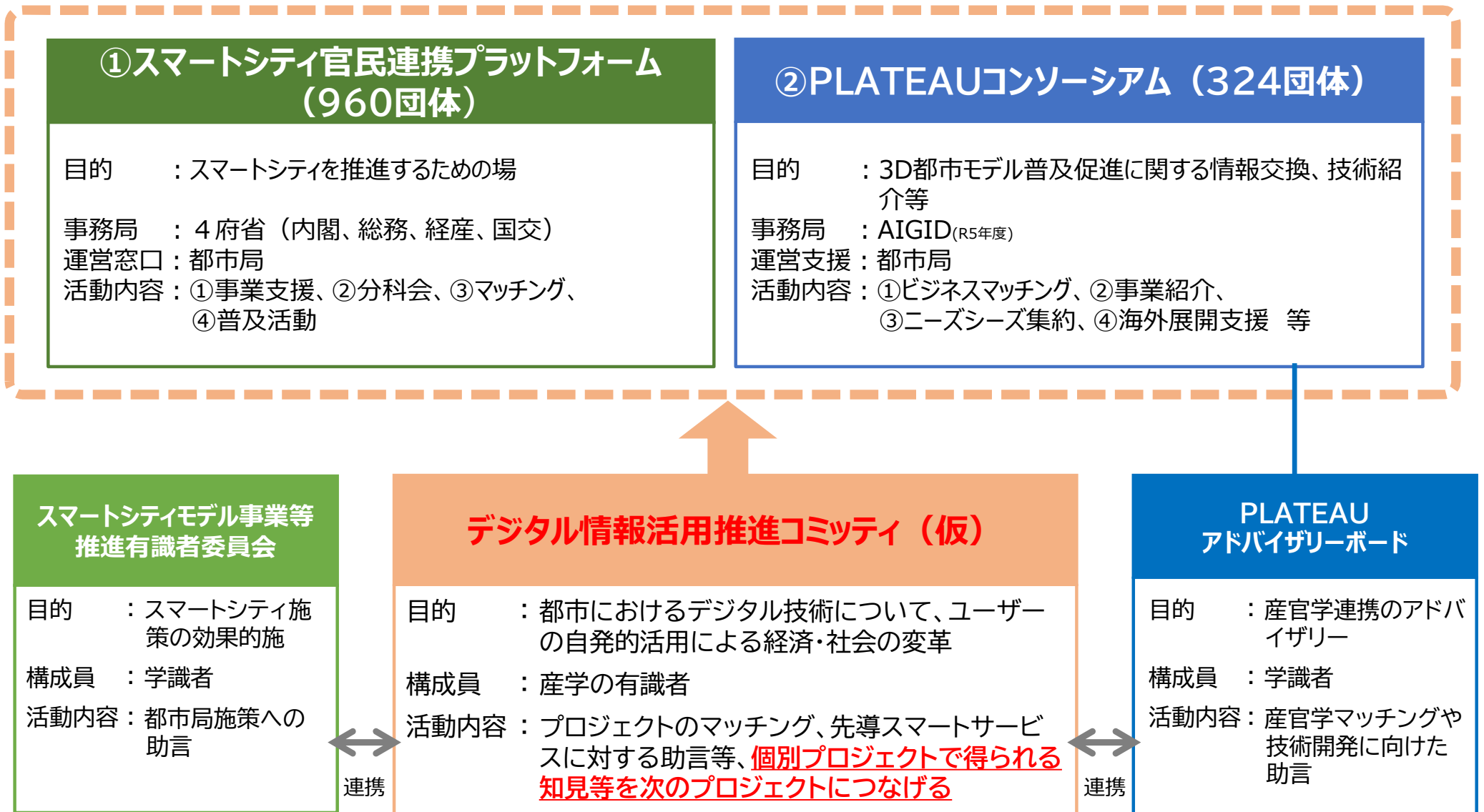




# 都市局のスマートシティ施策の改善提案

## ■スマートサービスが自然と創発される枠組み ⇒ **アドバイザリー組織の創設**

スマートシティのデジタルインフラの一つとしての「Project PLATEAU」による3D都市モデルの活用拡大も含め、**個別プロジェクトに関する適切な助言等を行う機関**が必要ではないか。



# 都市局が明示するテーマについて

---

# 都市局が明示するテーマについて

毎年度、本委員会で方向性やレベル感、数等を審議する

## R6年度実装化支援事業の重点テーマ

### (1) 都市空間に暮らす住民の生命を守るとともに、安心・安全を提供する

#### ○防災の高度化

自然災害の激甚化および人口減少に伴う自治体職員の減少に対応し、防災の高度化に資する事業  
サービス例 ⇒ AI水位予測、河川情報の広域連携、防災ドローン

#### ○安心・安全の提供

地域の住民に安心・安全を提供するため、デジタル技術を活用している事業  
サービス例 ⇒ 見守りサービス、スマートメーター

### (2) 都市のビジョンに従って都市空間をデザインし、かつドライブする

#### ○データ活用による都市計画の高度化、立地適正化計画への反映と市民参加

各種センサーから取得したデータを都市計画の高度化のために活用するとともに、行政への市民参加を促進する事業  
サービス例 ⇒ 人流データ活用した行政高度化、都市再生と一体となったDX推進

#### ○都市空間・インフラ維持管理手法の高度化

人手不足・2024年問題等の社会課題に対応し、都市空間の管理手法の高度化等に寄与する事業  
サービス例 ⇒ 除雪判断の高度化、デジタルツイン活用

# スマートシティ実装化支援事業 申請様式の方向性

---

申請様式の方角性 その1

# 「スマートシティ実行計画の概要」様式

# 〇〇地区スマートシティ実行計画概要

本資料は申請様式の方向性を示すものであり、実際の申請様式と異なる場合がある

## 都市・まちづくりのビジョン

→どのような都市、まちづくりを目指しているのかを具体的に記載する。

- (記載例) ○\* \*市では、県内最大の人口規模を持つ\* \*圏域有数の産業都市としてさらなる**中核的役割を果たし、圏域の活力を牽引し続けていく都市**を目指している。
- これに相応しい駅前空間の実現に向けて、現在、「\* \*駅・\* \*駅周辺整備事業」や「国道\*号 \* \* \* \*交通ターミナル整備事業」を推進する。
- これらの再開発を契機に、駅前空間などの**中心市街地に人が集まり、賑わいを創出**することで、都市の魅力・暮らしの質の向上、交流人口の増加、防災機能の向上等とともに、**企業の集積等**を進めることで、圏域の活力を牽引し続ける都市を実現する。

## スマートシティ導入のストーリー

→都市・まちづくりのビジョン実現に向けてどのような課題・解決方法があるのかを具体的に記載する。

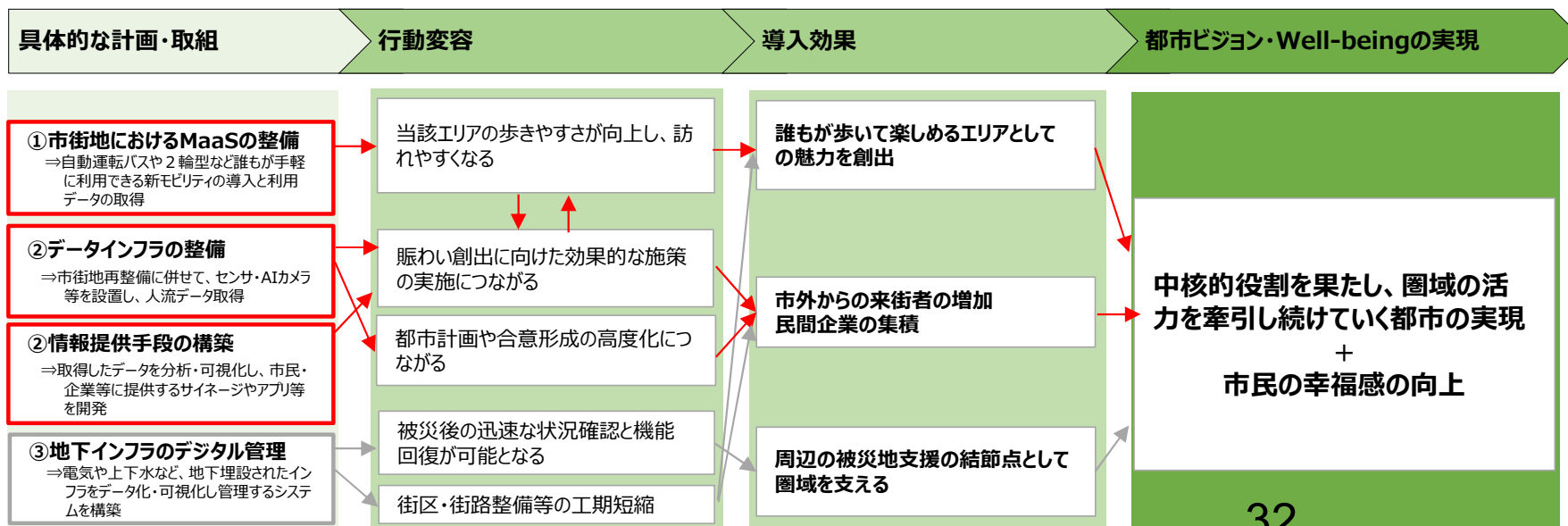
- (記載例) ①再整備される中心市街地（駅間）は約1.5kmの距離があるため、**誰もが歩いて楽しめるエリアとして魅力を創出**するためには、**スマート技術を活用した手軽なモビリティの導入等**により、この抵抗感を軽減する必要がある。
- ②人口減少・高齢化の進行といった社会変動の中でも、**市外からの来街者が集まる都市**とするため、**様々なデータの取得とその分析・活用による効果的な仕組み**が必要である。
- ③南海トラフ地震を想定した場合、被災後も**いち早く機能を回復し、周辺を支える都市**であるために、再整備に合わせて**インフラのデジタル管理**が必要である。

## 具体的な計画・取組

→課題解決に向けてどのような計画・取組を進めるのか、課題解決にどうつながるのか、等について具体的に記載する。

(記載例)

今回提案するサービスを実現する





申請様式の方角性 その2

# 「今回提案事業の概要」様式

# 提案事業概要 [実現するサービス]

国

本資料は申請様式の方角性を示すものであり、  
実際の申請様式と異なる場合がある

事業名:\*\*\*\*スマートシティ実証事業

●●県●●市

●●地区

## ■都市・まちづくりのビジョン

⇒どのような都市、まちづくりを目指しているのかを具体的に説明する。

## ■スマートシティ導入のストーリー

⇒都市・まちづくりのビジョン実現に向けてどのような課題・解決方法があるのかを具体的に説明する。

位置図

## ■導入するスマートシティ(サービス)の概要 ※R6実証事業に係るもの

キーコンセプト ⇒導入するサービスで実現したいことを端的に記載する。

⇒導入するサービスの目的や内容を端的に記載する。

⇒近隣地域との連携があれば連携内容を記載する。

キービジュアル

※権利関係の問題がないもの

## ■スマートシティ(サービス)のデザイン

⇒アーキテクチャ等で全体のサービスデザインを説明する。

⇒データやインフラ等を具体的に記載するとともに、特に利用者の手元でのデザインを説明する。

⇒近隣地域との連携があれば連携内容を記載する。

⇒PLATEAUを活用している場合は連携内容を記載する。

## ■事業実施体制

●●市スマートシティ推進コンソーシアム

	〇〇(株)
◎	〇〇市役所〇〇部〇〇課
	(株)〇〇
	〇〇(株)
	〇〇県庁〇〇部〇〇課
○	(一社)〇〇〇(都市再生推進法人)
	(一社)〇〇〇
	(医)〇〇
	〇〇(株)

## ■費用負担の考え方

⇒費用負担や短期・長期のマネタイズ  
の考え方等を具体的に説明する。

## ■自治体窓口

担当者:●●●●

Tel: 000-000-0000

Mail:

## ■想定する利用者とそのニーズ

⇒導入するサービスを利用する者の想定とその設定根拠、ニーズとの整合について説明する。

## ■本格導入後の効果検証

⇒効果検証の時期や方法、項目、目標値について、具体的に説明する。

# 提案事業概要 [R6年度実証の内容]

国

本資料は申請様式の方角性を示すものであり、  
実際の申請様式と異なる場合がある

事業名:\*\*\*\*スマートシティ実証事業

●●県●●市

●●地区

## ■実証の概要

実証内容	⇒実証実験で確認したい事項を記載する。(住民ニーズ・社会実装性・安全性・収益性・運営体制・将来性等)
実証の方法	
実証後の 検証・報告事項	

## ■実証内容の必要性・妥当性

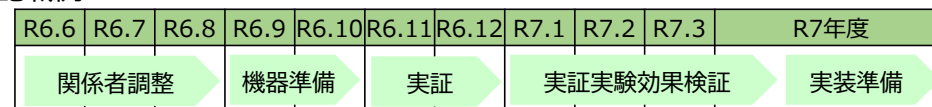
⇒次の事項を中心に、説明する。

- ・サービス導入に向けて、この実証が必要である理由。
- ・これまでの取組・得られた知見との整合やデータの再利用が図られていること。
- ・官民連携PFの活用など、必要な事前調査・準備を行っていること。

## ■R6年度実証事業のスケジュール

⇒月を明記したフローチャートで説明する。

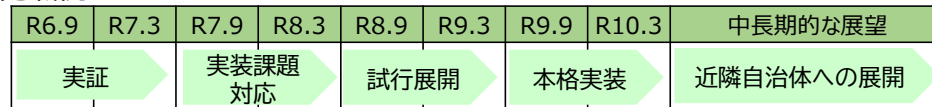
<記載例>



## ■本格導入までのスケジュールおよび中長期的な展望

⇒年を明記したフローチャートで説明する。

<記載例>



## ■R6年度実証に必要な経費

- ⇒実証事業全体の経費と費用分担を具体的に説明する。
- ⇒実証事業実施に必要な補助額とその根拠を説明する。

キービジュアル

キービジュアル

キービジュアル

キービジュアル